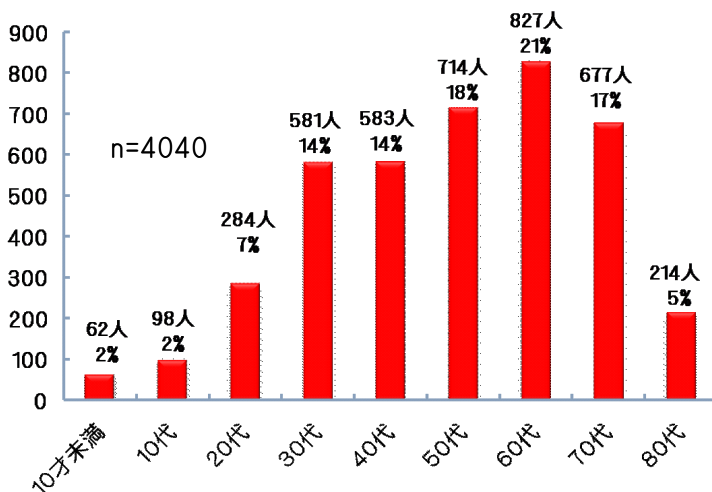


第22回漢方教室（漢方）

子供のための漢方—体質改善で元気な子に！—

I. 東洋医学外来における患者の年齢分布



2006年東海大学医学部付属病院東洋医学外来

II. 漢方が適応する小児疾患

広瀬滋之著『ドクター広瀬の0歳児からの漢方相談室』（光雲社）より引用

1 漢方単独ですぐれた治療効果を及ぼす小児疾患

1) 急性疾患

- a. かぜ症候群
- b. 消化不良症

2) 慢性疾患

(1) 反復感染、易感染

- a. 上気道炎
- b. 下気道炎
- c. 中耳炎（滲出性中耳炎も含む）
- d. 尿路感染症
- e. 化膿性皮膚疾患

(2) 慢性副鼻腔炎（アレルギー性副鼻腔炎を含む）

(3) 自律神経系疾患

- a. 特発性嘔吐症
- b. 周期性嘔吐症
- c. 反復性臍疝痛
- d. 自律神経発作症
- e. 起立性調節障害
- f. 関節痛、鼻出血、口内炎などいわゆる小児の徴症状

- g. 虚弱体質児
- h. 筋緊張性頭痛
- i. 夜尿症

(4) 小児神経症

- a. 夜泣き
- b. 夜驚症
- c. 憤怒けいれん

- (5) 心身症
 - a. 思春期心身症、とくに過敏性腸症候群
 - b. 登園、登校拒否症の初期症状
- (6) 慢性肝障害

2 東西両医学の協力ないし漢方と西洋薬の併用によって従来よりすぐれた治療効果を期待できる小児疾患

- (1) 感染症一般
- (2) アレルギー性疾患
 - a. 気管支喘息 b. アレルギー性鼻炎 c. アレルギー性副鼻腔炎
 - d. アトピー性皮膚炎 e. アレルギー性紫斑病 f. 反復性蕁麻疹
- (3) 腎疾患
 - a. ネフローゼ症候群 b. 腎炎（無症候性腎炎、遷延性腎炎）
- (4) 神経疾患
 - a. 熱性けいれん b. てんかん
- (5) その他の難治性疾患
 - a. 甲状腺機能亢進症 b. 若年性関節リウマチ
 - c. ステロイド治療を必要とする膠原病 d. 特発性血小板減少性紫斑病
 - e. 糖尿病 f. 再生不良性貧血 g. 難治性肝障害

3 漢方治療が適応となりにくい小児疾患

- (1) 未熟児、新生児疾患 (2) 救急処置を必要とする疾患
- (3) 呼吸器障害を伴う疾患 (4) 重症感染症
- (5) 先天性心疾患 (6) 先天性代謝異常
- (7) 寄生虫 (8) 多くの内分泌疾患

Ⅲ. 適切な漢方薬の飲ませ方

1 服用回数

- ・慢性症では1日2～3回でよい
- ・急性症では回数を増やした方が効果的なことが多い（1日4～5回）

2 小児服用量

体重 50Kg を目安に体重に応じて大まかに減らす

○Augusberger 式

$$\text{小児服用量} = \text{成人量} \times (4 \times \text{年齢} + 20) / 100$$

○目安

新生児	0.5 歳	1 歳	3 歳	7.5 歳	12 歳	成人
1/20～1/10	1/5	1/4	1/3	1/2	2/3	1

3 上手な飲み方、飲ませ方

○白湯に溶いて哺乳びんで飲ませる（1歳未満）

○服薬補助食品を使用する

○なるべく味の濃いものに混ぜる

*ヨーグルトドリンク

*かき氷&シロップ

*麦焦がし

*海苔の佃煮

*チョコレートクリーム（パンに塗るもの）

*みたらし団子のたれ

*さくらでんぶ

*カレーライス、ハヤシライス、ハンバーグなど → 食材として中に入れてしまう？

IV. 漢方からみた子供の特徴

1 水分の占める割合が大きい

1) 体重に対する総水分量の割合

小児：70～80%

成人：60～70%

高齢者：<60%

→ 小児は“水毒（水滞）”に陥りやすい

2) よく用いる漢方薬と病気・症状

①五苓散[17] (ごれいさん)

冬季下痢嘔吐症（ロタウイルス感染症・ノロウイルス感染症など）／下痢／嘔吐症

②柴苓湯[114] (さいれいとう)

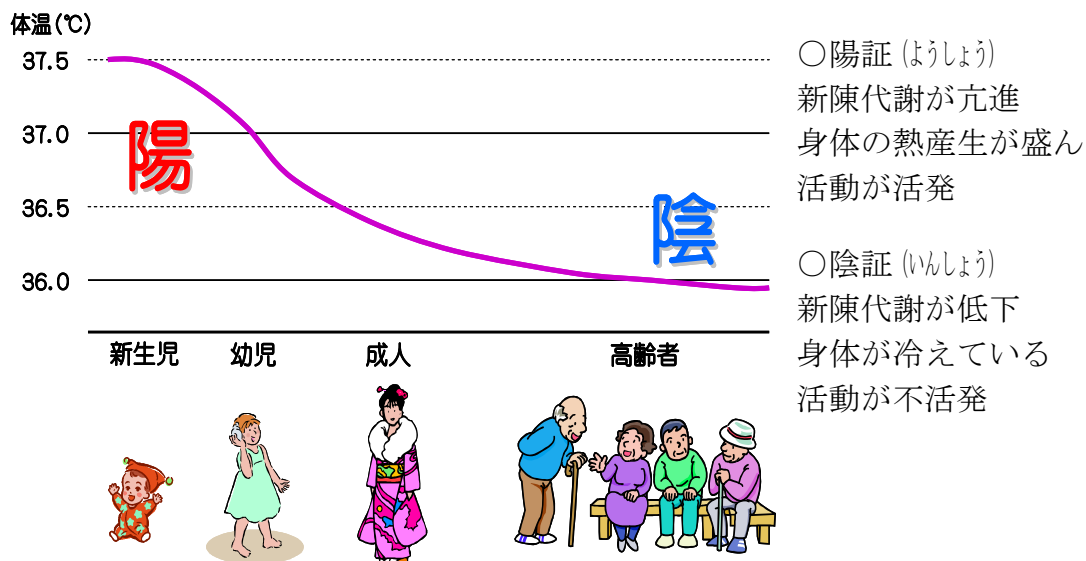
ネフローゼ症候群／滲出性中耳炎など

③小青竜湯[19] (しょうせいりゅうとう)

アレルギー性鼻炎など

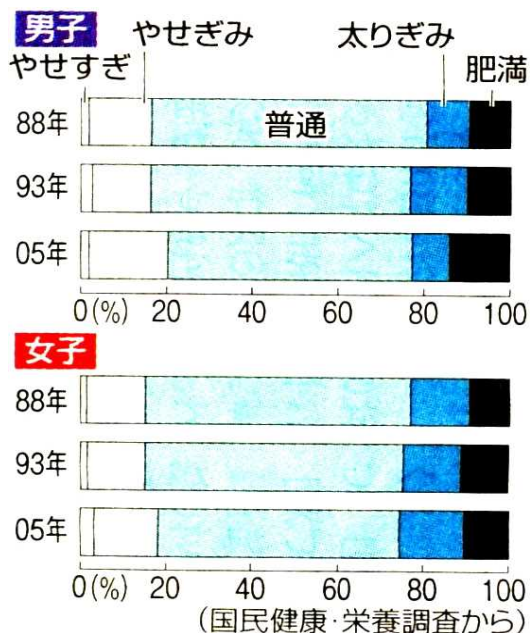
2 新陳代謝が盛んである

1) 小児には“陽証”が多い



3 虚弱体質児が比較的多い

1) 増加するスリムな子供たち



痩せて体力がない子供

- 漢方では“気虚”や“脾虚”と考える
- 気虚 (ききょ) : 気力や体力が落ちた状態
- 脾虚 (ひきょ) : 胃腸機能が低下した状態

朝日新聞 (2007.05.17) より引用

2) 虚弱児の鑑別

- ①顔色が悪く、おとなしくジッとしている
- ②骨格が華奢で肉付きが悪い
- ③口唇が乾燥しやすい
- ④爪床の血行が悪い、爪の周囲にササクレが多い
- ⑤胸郭変形がある
- ⑥手足が冷たい
- ⑦暑さ寒さに弱い
- ⑧かぜをひきやすい
- ⑨胃腸が弱い (腹痛をおこしやすいなど)

花輪壽彦『漢方診療のレッスン』より引用

3) よく用いる漢方薬と病気・症状

花輪壽彦『漢方診療のレッスン』より引用 (一部改変)

(1) アトピー性皮膚炎、湿疹

a) おなかの弱い子 (脾型)

① 人参湯 [32] (にんじんとう)

下痢 / 冷えると腹痛 / 甘いものを欲する / 唾液が多い

② 小建中湯 [99] (しょうけんちゅうとう)

過緊張による腹痛 / 下痢と便秘 / 食が細い / 鼻血がでやすい

③ 黄耆建中湯 [98] (おうぎけんちゅうとう)

アトピー性皮膚炎 / 慢性湿疹

b) カゼを引きやすい子、アトピー体質の子（肺型）

① 小柴胡湯 [9] (しょうさいこう)

扁桃腺やリンパ腺が腫れやすい / 幼児期によく用いる

② 柴胡桂枝湯 [10] (さいこけいしとう)

扁桃腺やリンパ腺が腫れやすい / 腹痛 / 学童期によく用いる

c) 神経質な子（肝型）

① 抑肝散 [54] (よくかんさん)

癩癩 / イライラ / 怒りっぽい / 夜泣き / 歯ぎしり / チック

② 甘麦大棗湯 [72] (かんばくたいそうとう)

ヒステリー / 泣き虫

d) 「気持ちが悪い」という子（心型）

① 苓桂朮甘湯 [39] (りょうけいじゆつかんとう)

立ちくらみ / 朝礼で倒れる / 仮性近視 / 乗り物酔い

② 五苓散 [17] (ごれいさん)

水分をほしががる / スポッと吐く

e) 成長の遅い子（腎型）

① 六味丸 [87] (ろくみがん)

骨や歯などの発育不良

4 肝の失調をきたしやすい

1) 若者はイライラしやすい！怒りっぽい！

若年者優位に出現する症状

P値

(長谷村フィールドワークより)

女性	P値	男性
頭痛 / 下痢しやすい	10 ⁻²	暑がり / 腹痛 / 頭痛
冷え性 / 腰痛		顔色が悪い / めまい
疲れやすい・だるい	10 ⁻⁴	寝汗をかきやすい
便秘がち / むくみがち		歯茎から血が出る
腰や手足の冷え	10 ⁻⁶	疲れやすい・だるい
歯茎から血が出る		下痢しやすい
肩こり / 痔がある	10 ⁻⁸	肩こり
寒がり / 低血圧		イライラする
めまい	10 ⁻¹⁰	
皮膚の乾燥		朝起きられない
朝起きられない	10 ⁻¹²	
イライラする	10 ⁻¹⁴	
怒りっぽい		

新井信、他：日本東洋医学雑誌 61(2): 154-168, 2010 より

五臓の対応表

五臓ではイライラを
“肝の失調”と考える

五臓	五腑	五竅	五主	五色	五味	五志	五声
肝	胆	目	筋	青	酸	怒	呼
心	小腸	舌	血脈	赤	苦	喜(笑)	言
脾	胃	口	肌肉	黄	甘	思(慮)	歌
肺	大腸	鼻	皮	白	辛	悲(憂)	哭
腎	膀胱	耳	骨	黒	鹹	恐(驚)	呻

2) よく用いる漢方薬と病気・症状

①抑肝散[54] (よくかんさん)

癩癧／イライラ／怒りっぽい／夜泣き／歯ぎしり／チック／母子同服

②抑肝散加陳皮半夏[83] (よくかんさんかちんぴはんげ)

抑肝散が効かないとき／胃腸虚弱

③甘麦大棗湯[72] (かんばくたいそうとう)

ヒステリー／泣き虫

5 慢性炎症や免疫異常に対して柴胡剤を用いる機会が多い

1) よく用いる柴胡剤

幼児期は小柴胡湯[9] (しょうさいこうとう)

学童期は柴胡桂枝湯[10] (さいこけいとう)

2) 小柴胡湯[9] (しょうさいこうとう) はどのような症状に用いるのか

(1) 急性熱性疾患

a) 少陽病期 (かぜをこじらせた時期)

消化器症状 (口が苦い・粘る／味覚異常／食欲低下) が出現

(2) 慢性疾患

a) 慢性的な炎症が続く場合

慢性肝炎／慢性扁桃炎／気管支喘息 (気道粘膜の慢性炎症) ／慢性気管支炎

b) 呼吸器系の虚弱体質、免疫系の不具合がある場合

かぜを引きやすい／リンパ節を腫らしやすい／原因不明の発熱を繰り返す

c) 消化器症状が持続する場合

口が苦い・粘る／食欲低下／吐き気／上腹部不快感

3) 扁桃炎を繰り返す子の漢方治療

(1) 小柴胡湯をベースにその類縁処方を常用させる

① 小柴胡湯[9] (しょうさいことう)

慢性炎症や免疫異常に対する基本処方／学童期よりも幼児期に用いる機会が多い

② 小柴胡湯加桔梗石膏[109] (しょうさいことうかきぎょうせこう)

咽頭痛がある場合／扁桃炎を繰り返す場合には最もよく用いる

③ 柴胡桂枝湯[10] (さいこけいとう)

学童期によく用いる

④ 柴朴湯[96] (さいぼくとう)

咳／喘息傾向／咽の違和感

(2) 咽痛時に駆風解毒湯加桔梗石膏を冷服させる

① 駆風解毒湯加桔梗石膏[エキス剤にはない] (くふうげどくとうかきぎょうせこう)

煎じ薬

あらかじめ煎じて製氷器で凍らせておき、咽痛を訴えた時に一片ずつなめさせる

② 桔梗湯[138] (きぎょうとう)

エキス剤を適量 (コップ 1/2～1/3) の白湯に溶いて冷まし、少量ずつうがいする
ように服用させる

③ 甘草湯[401] (かんぞうとう)

桔梗湯と同じ方法で服用させる